

解 説



# 田口玄一とセミナー事務局

## *Relationship between Dr. Taguchi and the JSA Seminar Secretariat*

中泉 純\*

*Jun Nakaizumi*

矢野 耕也\*\* (聞き手)

*Koya Yano*

2020年から田口玄一に関わる過去のエピソードを聞くというテーマをシリーズで続け、田口伸、鴨下隆志、中島建夫らの各氏、また岐阜県の研究会と併せて4回行ってきたが、今回は田口が活動の主戦場の一つとしてきた日本規格協会における活動の一端について、1970年代から真横で見聞きをしている中泉純氏に話を聞きたい。40年以上も前のことなので、読者になじみのない人物も登場するが、QCの世界では伝説的人物で、また田口を支えてきたという背景もあるため、そのまま掲載を行うこととした。なお敬称については極力初出までとして割愛し、発言内の記載については一部残した。

### 1. はじめに

矢野(以下一) 田口玄一(以下田口と呼称する)は1950年代から一般財団法人日本規格協会<sup>1)</sup>(以下JSAと略す)で長年にわたってさまざまな活動を行ってきているが、2006年の頭を最後に闘病生活に入ってしまった(2012年逝去)、また現役として活躍していた当時を知る人もだんだん少なくなっている。そこでJSAの職員として真横でみてきたことについて、エピソードも含めて知っていることを教えてほしい。まずは中泉氏の簡単な経歴と、田口との出会いを教えてほしい。また出会ってからはどのような形で関わったのかも説明があれば助かる。

中泉 1985年に普及事業部(営業部)より管理技術センター(略称MEC)に配属され、標準化や品質管理に関する顧客ニーズ調査と新たな研究会の設立をし、今後のセミナー開発に役立つ活動を命じられた。西堀流新製品開発セミナーの担当者となり、主任講師の西堀榮三郎<sup>2)</sup>先生(以下西堀榮三郎、

または西堀と略す)から「君は管理技術センターに配属され、何かやりたい事があるのか」と問われたので「私はmade in Japanの手法である、品質機能展開<sup>3)</sup>と田口メソッドを普及したいと考えています」と答えたら、即座に「それは、ええなあ。何かあったら私がバックアップするので、思い切ってやってみなさい」とのうれしいお言葉をいただいた。

品質機能展開は国内の実施事例を集め、月刊誌「標準化と品質管理」誌<sup>4)</sup>に連載し、それをまとめて『新製品開発のための品質展開活用の実際』の単行本を1988年に発行し、その単行本をテキストとして、初めて国内では本格的なセミナーを開発・実施したが、やがて赤尾洋二先生グループの尽力もあり、全国的に普及した。また、田口メソッドは矢野宏先生や横山巽子先生等の尽力により、現在の品質工学セミナーや品質工学関係の書籍発行、シンポジウム等に発展した。

### 2. 田口玄一とセミナー

— 何か特別な思い出があったら教えてほしい。  
中泉 田口先生(以降田口と記す)との一番の思い

\* 元日本規格協会

\*\* 日本大学